



まっすぐ。

6月議会

## 今年度の定例議会から

**18歳選挙権付与への対応について**

問 政治が自分たちの未来を切り開くことだとしっかりと伝えていくべきだと思います。若い世代の投票率、低い傾向にありますが、その原因をどのように考えているのか伺います。

答 若者の投票率低下の要因については、普段から国や地方の政治にどの程度関心を持っているのかという関心度が若い年代ほど低く、投票率に強く影響している、また投票は国民の義務と考える人は年代を追うごとに増える一方、若い世代ほど個人の自由という考えが強く、個人の自由を考える人の投票率は低いといった分析がなされています。

## 9月議会

## 子育て支援について

問 県民の所得が上がる、あるいは家

族との触れ合いの時間が多く確保でき、お金に代え難い価値が得られるなど、島根県が働きやすく、子育てに参加しやすい環境を整えることが少子化対策であり、子育て支援になると考

えます。少子化対策、子育て支援の観点からも、全国平均よりも低い島根の労働水準を改善するためには、県は強いリーダーシップを發揮すべきだと考えます。これについて知事の御所見をお尋ねいたします。

いて理解させると同時に、子どもたち自身が身近な地域の問題について考えていく取り組みを通じて、その重要性を伝えてまいります。具体的には、隠岐島前高校での地域学や、江北高校の地域課題研究など、地域社会の課題を発見してその解決について主体的に考える、そういう取り組みを県内の高校全体に広げてまいります。



まっすぐ。

2回目の当選

## 写真で振り返る今年度の活動

4月の県議会議員選挙で2度目の議席をお預かりしました。たくさんのご支援に身の引き締まる思いでいっぱいです。ご期待に沿うべく若い世代の1人として皆さんのが声をまつすぐ県政に届けてまいります。



心して働く、子育てが出来る格差は正に全力で取り組んでいます。



ていかないと、新たには作れなくなる。」という言葉が印象的でした。

## 議員でありたい

政治家の活動のフィールドは常に「現場」にあります。さまざまな地域活動や街の声を拾い歩くこと。地

域のイベントや行事に来賓でお邪魔するのではなく、自ら一緒に汗をかいていくことをモットーに活動しています。

また様々な課題の答えも、「現場」にあるのです。

地元の町内会から、昭和50年生まれの仲間でつくる「ごまると会」、どう行列などいろいろなフィールドで街とのかかわりを大切にしています。

## ◎山陰ジオパーク視察

隠岐よりも足早く世界ジオパーク

調査を行きました。一緒に写っているのは「かにクン」。鳥取の魅力を地元から世界へ発信しています。

## ◎島根ジオパーク視察

島根県中央メーデーの様子

に認定された山陰海岸ジオパークを



は「かにクン」。鳥取の魅力を地元から世界へ発信しています。

まっすぐ。

## 子育て世代として

条例制定を機に、この協議会を

「イクメン議員」として子育て世代の視点を県政に反映させていきます。

実際 核家族の我が家での子育ては、妻に大きな負担をかけていることは否めません。いろいろな「気づき」を与えてくれる子どもに政治家としても成長させてもらえそうです。



## 事務所が移転しました

まっすぐ。



〒690-0884 松江市南田町105に移転しました。  
今後ともよろしくお願いします。TEL0852-24-2323





# 岩田ひろたか レポート 2016年新春号

HIROTAKA IWATA  
MASSUGU REPORT  
VOL.9



◎発行日:2016年1月 ◎発行者:岩田ひろたか事務所 ◎住所:〒690-0884 松江市南田町105 TEL:0852-24-2323

# 実行の年。 2016年のスタートに寄せて

## 2016年のスタートに寄せて

**皆**さんこんにちは。島根県議会議員の岩田ひろたかです。2015年春の県議会議員選挙で2度目の当選させていただき、県議として2期目の活動をスタートさせていただくことができました。2期目の初年度となる本年度は、初当選以来一貫して掲げる「すべての基本は人づくり」の視点を軸に活動しています。少子高齢化に伴う人口減少問題に全力で取り組むことがいま求められています。特に島根県が昨年秋に策定した地方創生プラン、「島根県総合戦略」の策定に当たつ

では、若い世代の視点や子育て世代の視点をどのように盛り込むか、みなさんからいただいたご意見をもとに、議会活動を通して執行部とやり取りを繰り返しました。その結果、「子育てしやすく活力ある地方の先進県 しまねを目指して」というスローガンが盛り込まれ、若い世代を応援するという県の姿勢を伝えるものが仕上がりました。2016年は「実行の年」。これから島根はどうあるべきかを皆さんと一緒に考えてまいります。本年も皆様からの変わらぬご指導をお願いいたします。

## 4 調査と検査：県の仕事が

いえるものの制定・改正・廃止、予算の決定、決算の認定、金額の多い契約の締結など、県政の重要な事柄はすべて議会の議決が必要です。

**2 選挙**：議長、副議長のほか、選挙管理委員などを選挙します。

**3 同意**：副知事、監査委員、教育委員、公安委員、人事委員などを知事が選任または任命するときには、議会の同意が必要です。

**6 請願・陳情の受理・審査** : 議会に提出された請願・陳情について審査し、その内容が県政や県民にとって適当と認められるときは採択し、県政に反映させるように努めます。

議案(予の提出

議

ききました。

また特別委員会として地方創生・行財政改革調査特別委員会に所属し、この度の総合戦略の策定にも関わらせていただ

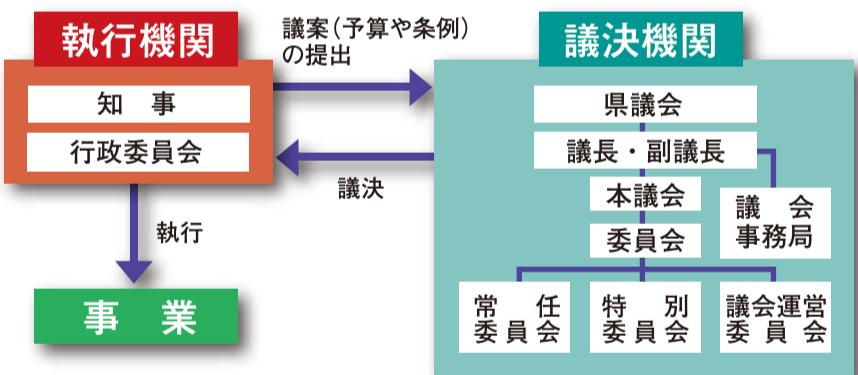
**執行機関**

知事

行政委員会

執行

事業



いう若い世代の夫婦にとつては、パンとこないと考えました。そこで第1子からの支援の必要性を訴えました。年収による制限が出でてくる見通しですが、来年度の施行に向けて引き続き協議をしていきます。

これらも9月議会の一般質問において、「中小企業、とくに小規模企業では育休をあげたくてもあげられないといった事情があるのではないか?」と支援制度の必要性を訴えました。これまでの「つづろカンパニー」などの取り組みからさらに深まるよう執行部に求めていきます。

総合戦略はあくまで戦略、具体化する戦術はこれからもつと詰めていかなくてはなりません。議員の立場からしつかりと意見していきます。

## 県議会の仕組み

報告  
まっすぐ。

# レポート 2016年新春号



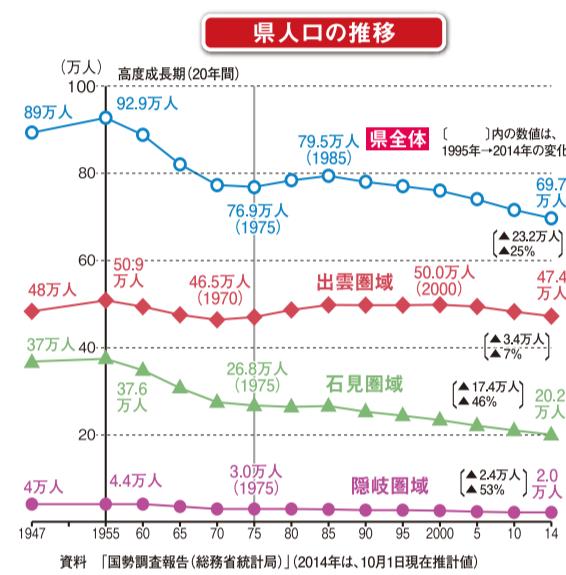
# 総合戦略で大きな成果！

◎若い世代の視点を反映

島根県の人口は、昭和30年（1955年）の92万9千人をピークに、昭和50年（1975年）

頃までの高度成長期における大都市への人口流出により大きく減少しました。また、県内でも

半分程度に減少しています。こうした現状を打破するためには島根県総合戦略が策定されました。



石見・隱岐圏域では、昭和30年（1955年）に  
◎基本目標3／しまねに定着  
回帰・流入するひとの流れづくり

## 子育て支援は 第1子からすべき

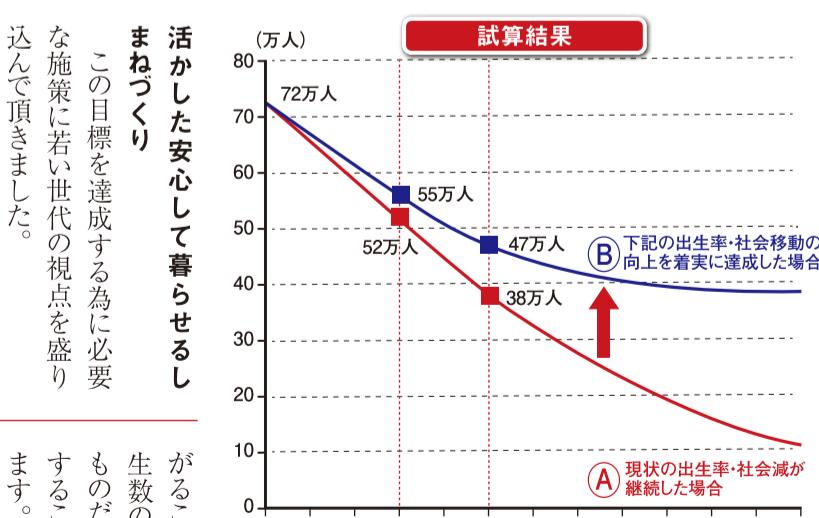
## 中小企業の子育て支援を応援する

2040年までに合計特殊出生率2・07と社会移動の均衡を目指す

● 基本目標1／しそごとづくり  
　　としごとを支えるひどづくり

● 基本目標2／結婚・出産・  
　　子育ての希望をかなえる社会づくり

● 基本目標3／しまねに定着、



	前提条件		試算結果	
	自然動態	社会移動	2040年	2060年
試算(B)	国の長期ビジョンと同様に県の出生率が2040年までに2.07となった場合	県の減少率が2040年までに段階的に0となった場合	55万人	47万人
試算(A)	県の出生率1.63(2009～13年平均)が継続した場合	県の減少率(2009～13年平均)が継続した場合	52万人	38万人